

アンラーニングプロジェクト・2013

「拒否」が拓く地平—日本の「構成」的解体の方へ

2013/06/30

レポート 水橋 透

『拒否』の〈前〉線をさぐる・2—「拒否」の最前線は沖縄にあり

- 1, 「繰り返し変わる：沖縄における直接行動の現在進行形」(阿部小涼)
この微妙な言い回しの意味は？
- 2, 「拒否」を身体で表現している沖縄の人々
身体を張った「拒否」の累積が日米の権力にとって無視しようがないところまできている→日米同盟の足下まで水位が上がっている→「権力の中枢部にオキナワが進駐している」
- 3, 長い抵抗の歴史が背中を押している→1995年の米兵女児暴行事件により再燃→日米権力はSACO合意を用意するも、だまされず→その後の「失われた10年」の中の象徴的な2つの直接行動
- 4, 「座り込み」考
 - 1 国家権力の暴力に生活を対置
 - 2 「島ぐるみ闘争」伊江島の阿波根昌鴻→「陳情規定」→「乞食行進」
 - 3 市民的不服従の手段としての「座り込み」→公民権運動
 - 4 普天間のそばで暮らすこと自体が「座り込み」と繋がることではないか？
- 5, 辺野古と高江の新しい行動スタイル
 - ・リーダー不在ミーティング
 - ・生活を強調
 - ・文学
 - ・音楽
 - ・文化 (カウンターカルチャー／スポーツ／エコロジー)
- 6, 琉大「占拠」に模倣／継承される「座り込み」→世界の抵抗運動／世界の「拒否」闘争とどのように繋がるか
- 7, オキナワの「直接行動」は「繰り返し変わる」ブルースである
沖縄人はブルースピープルである
- 8, アフリカ系の抵抗運動に即せば→怒りは当然
- 9, 縦のつながりと横の広がり→縦があつてこそ今があるのだが、横のつながりに世界との共時性を感ずること→ヤマトの閉塞状況を超えて開放感
- 10, 「座り方」の違い
阿波根の頃と高江／公民権運動と高江
普天間「封鎖」と高江／普天間の隣に暮らすことと高江

「日米政府による暴力的『合意』を拒否するため、私たちに何ができるのだろうか」

05/11「合意していないプロジェクト」始動 → 日米合意拒否 → 「拒否」の最前線は沖縄にあり

● 「座り込み」考

生活しながら居続ける＝国家の暴力に日常生活を対置／ごぼう抜きされる場面で被害者性を強調／非暴力不服従の形で見えない暴力を可視化する／その身体性はどこからくるのか←もちろんその歴史性：「銃剣とブルドーザー」で農地を奪われた阿波根昌鴻らの「陳情規定」などから・・・しかし、それだけではない。全世界の米軍基地所在地における抵抗運動／ポストコロニアリズムの運動／アフリカ系アメリカ人の公民権運動／スクォッティング（空き家の合法占拠）／オキュパイ／F1以後の反原発現地行動と・・・これらと「補助線」でつながっている

そしてブルースのように「繰り返し変わる」のが、沖縄における直接行動である

ウェス・モンゴメリーの「カリバ」では、そのソロの美しさは、ウイントン・ケリーのピアノによって決まる。一連の試行錯誤（ソロ演奏）に应答し、繰り返しように見えて旋律を少しずつ変更し、ずらし、呼びかけと应答として聞き取ることができる。

2012年9月 オスプレイ配備反対、基地閉鎖
普天間ゲート前座り込み4日間の封鎖

2011年12月 普天間基地移設 環境影響評価搬入阻止行動

祝祭的ムーブメント

世界的ムーブメントに呼応する動き／反G8 反グローバルゼーション 素人の乱 フリーター労組運動 ヤマトの運動とどう繋がるか？

「抵抗権」の勝利？

オーストラリアパインギャップ米軍基地侵入通信施設暴露（民間査察団）「パインギャップ・フォーの無罪判決」98年

2008年哲学者コーネル・ウェストは「沖縄人はブルースピープルだ」＝「ブルースとは、悲惨な経験を歌詞に込めつつも、優雅さと気品を保ち続けること。権力があなたに襲いかかってつぶされそうだとわかっていても、現実と向き合い、笑顔を忘れず、反抗し戦い続けるやり方。それがブルースです」と言った。

reparation（賠償運動）＝「アフリカ系の抵抗運動に見る賠償要求の正当性（ロビン・ケリー）」に即せば、沖縄は基地に依存して生きていない。破壊収奪への不払いの返済が十分でないだけだ。むしろ、「未だ支払われていないのに、さらに犠牲を増やすというのか」という怒りがある。

NY ハーレムでのアフリカ系、イーストハーレムのプエルトリコ系の占拠運動と

新植民地主義 フランスに対するアンティール／ヤマトに対する東・東南アジア とどう繋がるか

2001 プエルトルコ・ピエケス島米軍軍事演習中止と「米軍拒否の前線」として繋がる

琉大生の学内「占拠」 2009年

同じでありながら変化していく抵抗のアクション＝模倣／過去を継承しつつ変わる

辺野古と高江の直接行動に対するオマージュ 語り合うための「座り込み」

辺野古移設反対

海上座り込み＝「海で暮らす抵抗」「女性のトイレは？」＝日常を持ち込め
SACO合意後10年を超える闘いは、代替わりしながらの生活をかけた重み
金武湾闘争からの活動家 ジュゴン 珊瑚礁
市民的不服従＝阿波根のパネル

高江ヘリパッド（オスプレイ）反対

2007年7月から
転入者多く「住民」/「土地所有者」の運動ではない 組織的でない 座るもの同士の「親密圏」 おいしいお弁当の作り方 反グローバルズム 音楽 エコロジー カウンターカルチャー「社会的弱者」が主体

1995 米兵女児暴行事件→1996 SACO 合意「基地の整理縮小（＝機能強化）」以後の象徴的な2つの直接行動

底流 にある50年代「銃剣とブルドーザー」による土地の強制接收／1956年「島ぐるみ闘争」阿波根昌鴻